

日時：令和7年1月28日（火）18:30～20:00

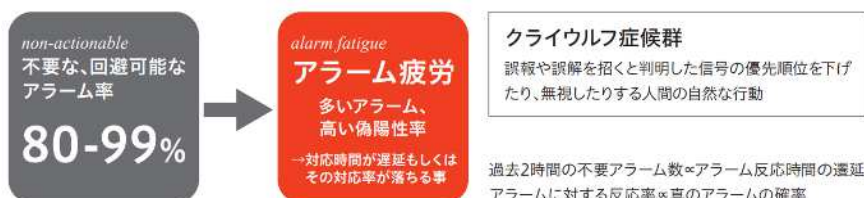
講演：モニターのアラームを制御する

講師：北里大学医学部附属新世紀医療開発センター
横断的医療領域開発部門

侵襲制御・生体危機管理学（集中治療医学）

教授 新井 正康 先生

【アラーム疲労】



Bonafide CP, Lin R, Zander M, et al. Association between exposure to nonactionable physiologic monitor alarms and response time in a children's hospital. J Hosp Med 2015; 10:345-351.

鳴ったアラームの全てが意味のあるものであればよいのですが、実際は不要なアラーム、工夫をすれば回避可能がアラームが含まれていて、その比率は80～99%とされています。ほとんどのアラームは、鳴らなくてもよいにも関わらず、鳴っているということになります。

この状況における医療従事者への影響は、イソップ物語でよく知られた「オオカミ少年」の話になぞられて、「クライウルフ症候群」と表現されています。誤報や誤解を招くと判明した信号の優先順位を下げたり、あるいは無視したりする、人間の自然な行動を誘発します。

アラーム疲労とは、アラームの数が多すぎることで、アラームの質として偽陽性率があまりにも高いことから、その次のアラームに対する対応時間が遅延したり、もしくは対応率が落ちたりすることであると定義されています。また、過去2時間の不要アラーム数が多いと、次の1時間のアラームへの対応時間が遅れていく、アラームに対する反応率は、その状況における真のアラームの率に比例するといわれています。アラーム疲労は、まさにクライウルフ症候群だということがわかります。

※令和4年度国公立大学附属病院医療安全セミナー報告より

講演形式：Zoomでの配信

対象者：県内の医療機関で勤務する医師、看護師、事務等関係スタッフの方

参加申込：茨城県医師会ホームページより、必要事項をご入力の上、
送信してください。（締切：1月23日（木）17時まで）
茨城県医師会ホームページ(<http://www.ibaraki.med.or.jp/>)
＞ 講座・研修情報
＞ 茨城県医師会 医療安全、医事紛争防止のための研修会



お申込みはこちら↑

参加方法：招待メール等につきましては、1月27日（月）正午までに、お申込みいただいたメールアドレス宛へ送信いたしますので、ご確認をお願い致します。
メールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

その他：①医療安全推進責任者研修受講証を発行いたします。
②日本医師会生涯教育講座1単位（CC：7）※医師のみ